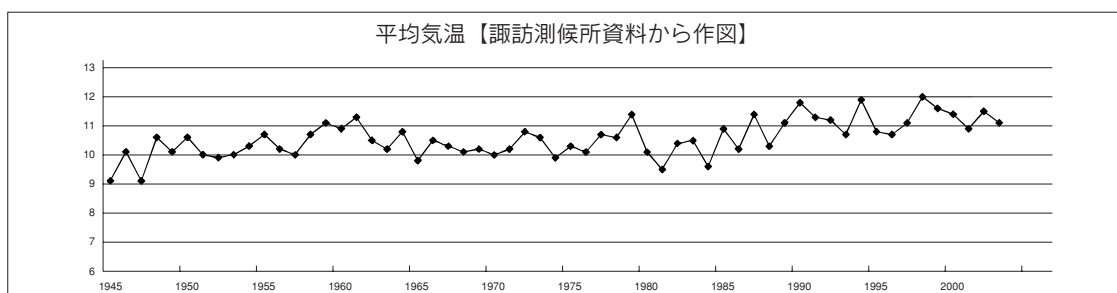


1 いま何故ビジョン策定が必要なのか

- 石油など化石燃料の大量消費等によって排出される二酸化炭素、メタン、フロンなどの温室効果ガスによって20世紀中の100年間に気温が0.4～0.8℃上がったと言われていますが、このまま増え続けると、21世紀末には地球全体の平均気温は1.4～5.8℃上昇し、海面水位は9～88cm上昇、桜の開花がさらに早まり、水稻など食糧生産異変、降水量や降雪量の減少による水不足など深刻な影響が現れることが予想されます。平成15年夏の国内の冷夏などは、地球温暖化に伴う兆候のひとつだと言われています。
- 諏訪地方でもこれまでに着実に気温は上昇していることが、諏訪測候所の過去58年間の年平均気温の変化から読み取れます。これは、生活が豊かになり、大量生産、大量消費、大量廃棄に伴い、事業活動や家庭から発生する二酸化炭素が主因と考えられます。



- 日本の二酸化炭素排出量は、アメリカ、中国、ロシアについて世界第4位であり、日本は火力発電所や産業・運輸・民生部門から発生する温室効果ガス排出量を平成22年（2010年）までに平成2年（1990年）に比べ、6%削減することを京都議定書で決めています。しかし、すでに現時点で、平成2年に比べ排出量は8%増加しています。また、自家用車の使用を含めた家庭から排出される二酸化炭素排出量は国内の23%を占めると言われています。
- このため、国では「地球温暖化対策推進大綱」を定め、また「エコスクールの整備推進」の報告書を作成、県では「長野県地球温暖化防止県民計画」を定めたところであり、新エネルギー活用や省エネルギー促進をより一層図ろうとしています。
- これまでに、市では「岡谷市環境基本計画」に基づき、市民、事業者、市が連携して様々な取り組みを進めてきましたが、わたしたち市民一人ひとりの日常生活と密接にかかわりのある、地球温暖化防止対策をより具体的に推進していくために、平成22年（2010年）に向けて、それぞれの立場で新エネルギーを導入していくこととします。そのために、このビジョンを定めました。

2 新エネルギーの種類と概要

- 新エネルギーの導入によって、石油などの化石燃料の消費が軽減されるとともに、それに伴って排出されていた二酸化炭素の排出量を減らすことができます。
新エネルギーのうち、現在までに市内で既に導入してきたもの、または今後導入可能なものとしては、「太陽光発電」「風力発電」「小水力発電」「燃料電池」「廃棄物熱利用」「バイオマスエネルギー」や、以前からある「太陽熱利用」だけでなく、「ガスコージェネレーション」「雪エネルギー」、低公害車では「ハイブリッド車」「LPガス車」「バイオディーゼル車」などがあります。

小水力発電、ガスコージェネレーション、LPガス車、バイオディーゼル車は
国などでは新エネルギーとして正規には定義されていません